

令和5年度「地域ニーズに応じた自営等BWAの高度利用に関する調査検討」

自営等BWAに対する期待

- ① 道内ブロードバンド空白地域における通信環境の構築手段として
- ② スマート農業、インフラ保守点検等の利用ニーズに最適化された通信ネットワークの選択肢として

- 自営等BWA（Broadband Wireless Access：広帯域移動無線アクセス）は、2.5GHz帯の電波を使用する無線システム
- その目的に応じオーダーメイドかつ高速でセキュリティの高い通信ネットワークが比較的安価に構築できるという利点を有する

- ※1 利用通信方式はTD-LTE方式（移動体通信規格であるLTE（Long Term Evolution）方式の一種）との互換性あり
- ※2 固定光回線並みの高速通信（下り最大220Mbps：20MHz幅システムで4×4 MIMOを使用した場合）
- ※3 一つの基地局で広域をカバー可能（半径2～3km）

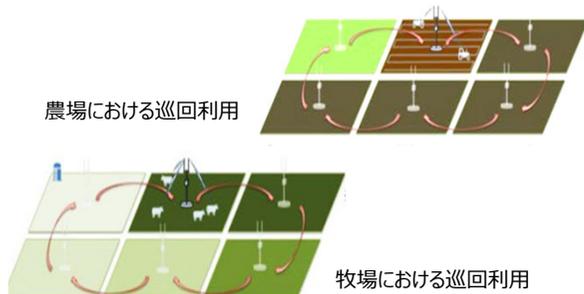
本調査検討会が目指すもの

- ① 自営等BWAの運用機能をさらに高めるための「新たな3つの運用形態」を提案
- ② その社会実装を実現するための必要条件となる周波数共用条件等の技術的条件を導出

<新たな運用形態1>

基地局（空中線）移設手順の簡素化

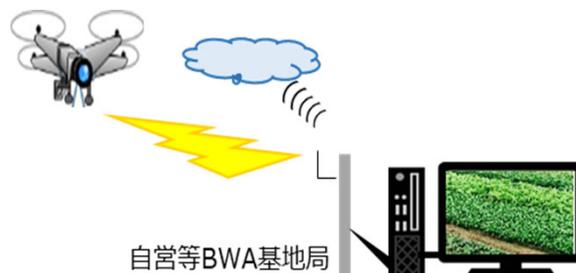
イメージ：自己土地内で複数のエリア化が必要な場合、工事設計の変更手順を簡素化(許可→届出)



<新たな運用形態2>

上空での運用

イメージ：端末をドローンに搭載し、撮影した映像をリアルタイムで地上へ伝送する等の利用を可能に



<新たな運用形態3>

準同期方式による運用

イメージ：上り回線の通信比率を通常より大きく確保し、精細な画像伝送を可能に

